

## Renesas RZ/A1H 用サンプル(IARC ベアメタル版)の説明

### (EV-RZ-xx+MP-RZA1H/FPGA-xx 対応)

#### 1. Sample の免責について

- Sample に関する Tel/Fax でのご質問に関してはお受けできません。ただし、メールでのご質問に関してはお答えするよう努力はしますが、都合によりお答えできない場合もありますので予めご了承ください。
- Sample ソフトの不具合が発見された場合の対応義務はありません。また、この関連ソフトの使用方法に関する質問の回答義務もありませんので承知の上ご利用下さい。
- Sample ソフトは、無保証で提供されているものであり、その適用可能性も含めて、いかなる保証も行いません。また、本ソフトウェアの利用により直接的または間接的に生じたいかなる損害に関しても、その責任を負わないものとします。

#### 2. サンプル (ベアメタル版) のプロジェクト名

サンプルプロジェクト名		
IAR_debug_rz	MCU 基板(MP-RZA1H/FPGA-*) 単体サンプル	ソース公開
EVRZ_Sample	MCU 基板(MP-RZA1H/FPGA-*) 評価用基板(EV-RZ-*)用サンプル	ソース公開
EVRZ_Sample_USB	MCU 基板(MP-RZA1H/FPGA-*) 評価用基板(EV-RZ-*) USB-Function 機能を追加したサンプル	実行ファイルのみ添付

統合開発環境	コンパイラー
EWARM(バージョン 7.50.2)	iccarm(バージョン 7.50.2)

C ソースに #ifdef 等のマクロ定義している場合に使用します。	
<b>注*1</b>	
__USED_DEFnano__=x	x = DEFnano を使用[1]する・[0]しない。
EV_RZ	EV-RZ-01 使用時に定義
ITF_LIB	USB-Function 使用時に定義

ASM ソースに IF 等のマクロ定義している場合に使用します。	
<b>注*1</b>	
__USED_DEFnano__=x	x = DEFnano を使用[1]する・[0]しない。

サンプルプロジェクト別に必要なマクロ定義例				
EVRZ_Sample	EV_RZ			
EVRZ_Sample_USB	EV_RZ	ITF_LIB		

#### 注\*1

「\_\_USED\_DEFnano\_\_=0」と使用しない側に定義しても内蔵 RAM へのダウンロードとシリアルフラッシュ ROM への書き込み操作は可能です。ただし、再操作する場合はターゲット側のリセット操作が必要になります。

## 2-1. 「IAR\_debug\_rz」プロジェクトの説明

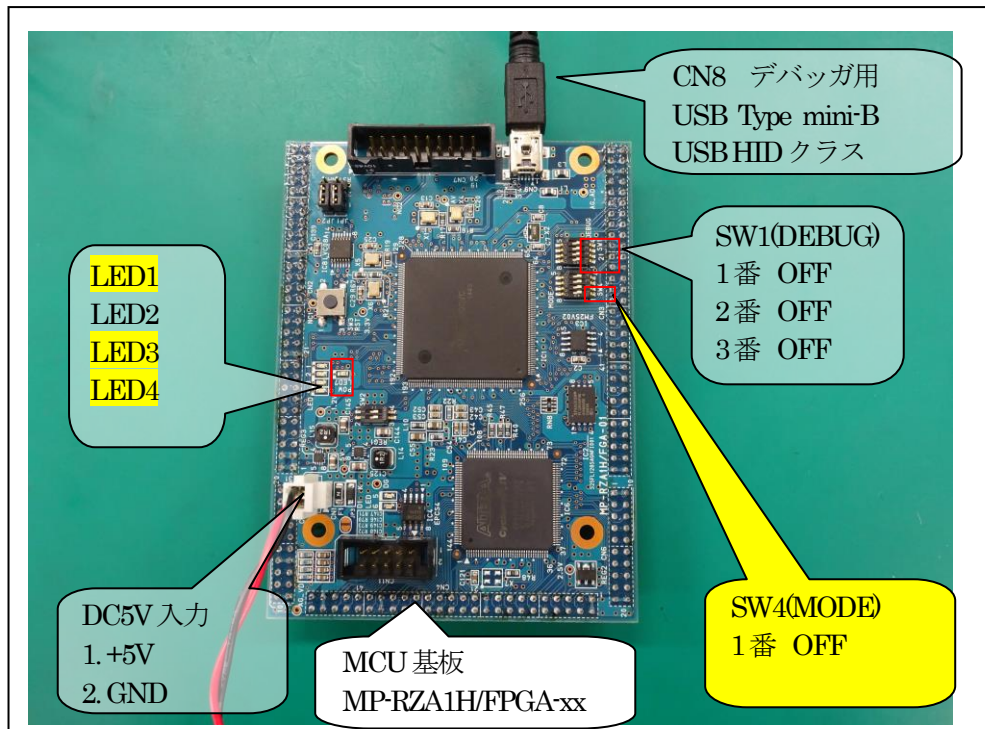
## 1) IAR\_debug\_rzの動作

- デバッグツール「DEFnano」等にて「IAR\_debug\_rz.out」をダウンロードして実行させる。
- 基板上のLEDをメインループ200回ごとにLED3を点滅
- 基板上のLEDをOSタイマー割り込みによりLED4を20msec毎に点滅
- 電源DWN検出LED1を点灯、FRAMに内蔵RAM[0x2000\_0000]からSize[0x8000]書き込む

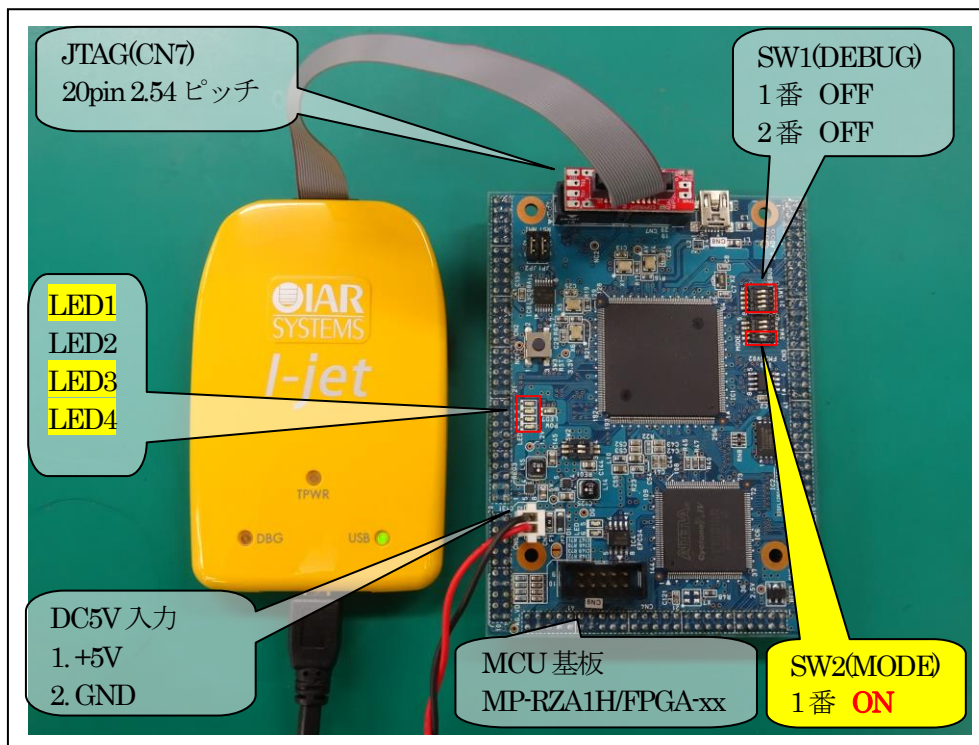
## 2) フォルダ構成とファイル名

Sample IAR\IAR_debug_rz			
	Debug	Exe	IAR_debug_rz.out //ABS ファイル IAR_debug_rz.mot //Hex ファイル
		List	IAR_debug_rz.map //MAP ファイル
		Obj	*.cout *.o *.pdi
		config	smpz1h.icf
	src_app	inc	src_appのインクルード用ディレクトリ
		main.c	メイン処理
		board_d.c	LED・SW等の処理ソフト
		ostm_d.c	OSタイマー処理ソフト
		sfram.c	FRAMの初期化とread/write処理
		spibsc.c	SPIBSCの初期化とread処理
	src_sys	inc	src_sysのインクルード用ディレクトリ
		_vector_table_s.s	リセットベクターテーブル
		_init_handler_s.s	割り込みハンドラー処理
		_rst_handler_s.s	リセット時のARM初期化処理
		resetprg.c	システム初期化とCPG初期化処理
		intc_table.c	IRQベクターテーブル
		interrupt.c	割り込みコントロール処理
		Umonitor.c	デバッグモニター処理

3) 動作構成



4) 動作構成(I-jet)



## 2-2. 「EVRZ\_Sample」プロジェクトの説明

## 1) 動作説明

- Tera Term からのコマンド指示により各デバイスを動作させる。
- 各コマンド体系は後記にて説明します。

## 2) フォルダ構成とファイル名

Sample_IAR\EVRZ\EVRZ_Sample			
	Debug	Exe	EVRZ_Sample.out //ABS ファイル EVRZ_Sample.mot //Hex ファイル
		List	EVRZ_Sample.map //MAP ファイル
		Obj	*.cout *.o *.pdi
	config	smpzalh.icf	ロケート定義用ファイル
	src_app	inc	src_app のインクルード用ディレクトリ
		main_s.c	メイン処理
		board.c	LED・SW 等の処理ソフト
		bsc.c	BSC 初期化処理
		ostm_s.c	OS タイマー処理ソフト
		rtc.c	RTC の初期化と処理ソフト
		sfram.c	FRAM の初期化と read/write 処理
		spibsc.c	SPIBSC の初期化と read 処理
		command.c	コマンド処理
	src_eva	inc	src_eva のインクルード用ディレクトリ
		e2p.c	EEPROM の read/write 処理
		riic_comm.c	RIIC の初期化と read/write 処理
		rscan.c	RSCAN の初期化と read/write 処理
		sci_comm.c	SCI の初期化と read/write 処理
		usb_func.c	ITF_USBLib の使用サンプル
	src_evb	inc	src_evb のインクルード用ディレクトリ
		c_lcd_fpga.c	キャラクタ LCD 表示処理
		m_lcd_fpga.c	モノクロ LCD 表示処理
		pwm1.c	DC モータ(PWM 出力)制御処理
		tp_mode.c	タッチパネル(RIIC)制御処理
	src_vdc	inc	src_vdc のインクルード用ディレクトリ
		c_font.c	半角英数字のフォントテーブル(5x7)
		k_font12.c	漢字フォントテーブル (12x12)
		dvdec.c	DVDEC 初期化・コントロール処理
		Vdc5.c	VDC5 初期化・コントロール処理
		vfont.c	グラフィック LCD 文字出力・表示処理
		video.c	ビデオコマンド管理処理
		vin.c	VIN コントロール処理
		image.c	色識別 (赤・緑・青) コントロール処理
		vram.c	ビデオ RAM 定義
	src_sys	inc	src_sys のインクルード用ディレクトリ
		_vector_table_s.s	リセットベクターテーブル
		_init_handler_s.s	割り込みハンドラー処理
		_rst_handler_s.s	リセット時の ARM 初期化処理
		resetprg.c	システム初期化と CPG 初期化処理
		intc_table.c	IRQ ベクターテーブル

---

---

		interrupt.c	割り込みコントロール処理
		Umonitor.c	デバッグモニター処理

- 3) コマンド実行を指示するため「TeraTerm Pro」をインストールする。
- ① 「teraterm-4.80.exe」を検索してダウンロードする。
  - ② PCにインストールし実行する
  - ③ シリアルポートの設定

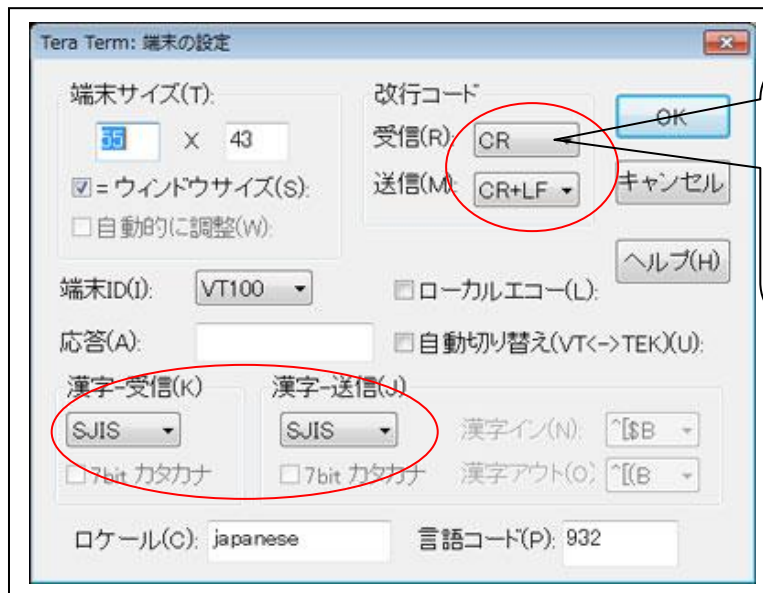


COM 番号は、  
PC 側でシリアル  
通信可能な番号を  
指定する。

115200BPS  
8bit  
none  
1bit  
none

の仕様にする。

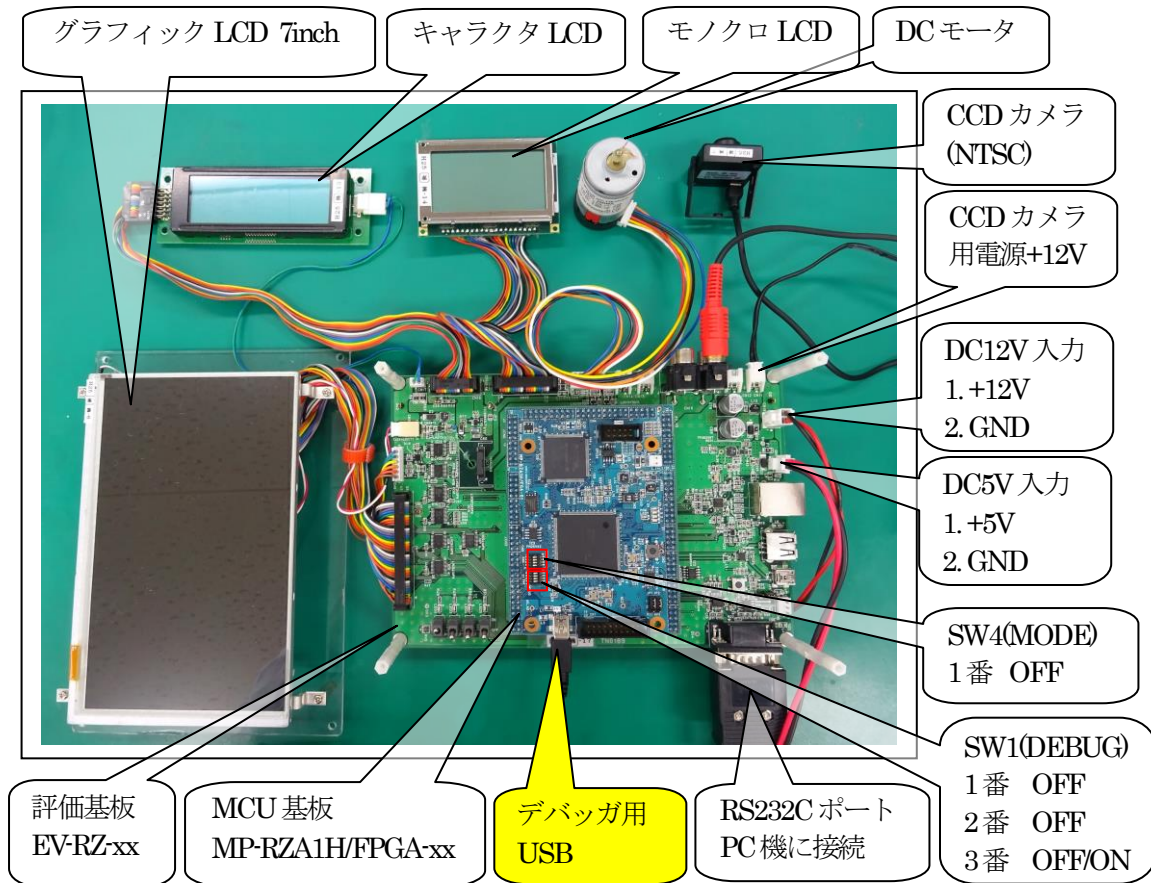
- ④ 端末の設定



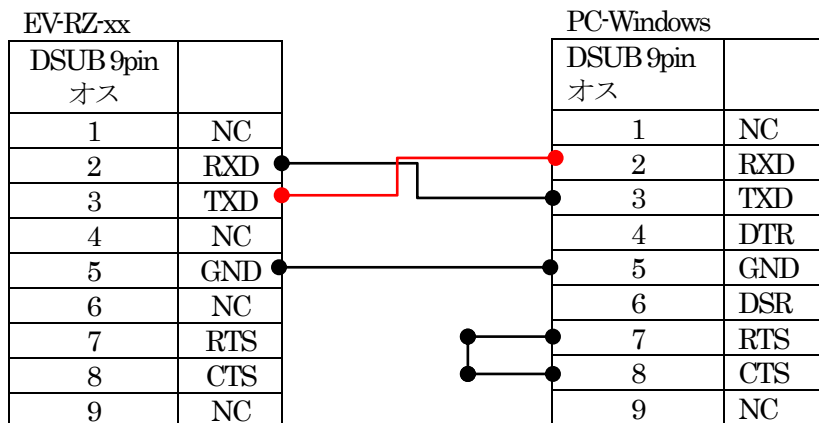
USB シリアルコン  
バータ使用時に  
CR コードがカット  
される設定の場合  
は、受信 : LF  
にして下さい。

赤丸の設定にする。

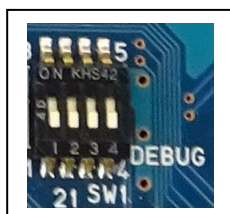
4) 動作構成



- ①PC 機と接続する RS232C ケーブルは、市販「クロスケーブル」でも可能です。
- ②USB-シリアル変換ケーブルを使用される場合は、「StarTech.com 社 ICUSB232FTN」を推奨
- ③自作する場合は、下記の配線になります。

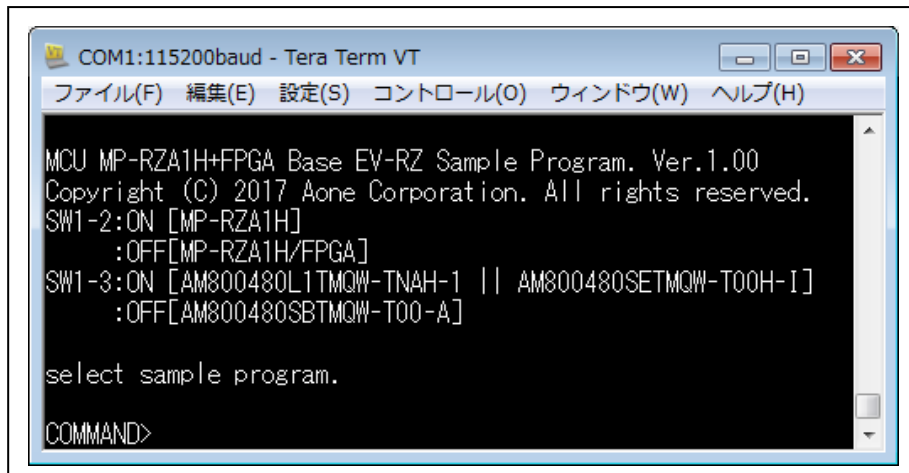


③MCU 基板上の SW1(DEBUG)設定



- SW1-1 **OFF** ベアメタル版では影響なし
- SW1-2 **OFF** MP-RZA1H/FPGA-xx 用サンプルを指定
- SW1-3 **OFF** 7inch AM-800480SBTMQW-T00  
(ON) 5inch AM-800480L1TMQW-TNAH-I  
7inch AM-800480SETMQW-T00H-I 接続時

- 5) 「EVRZ\_Sample」プロジェクトのプログラムを MCU 基板にダウンロードして実行させます。



```

COM1:115200baud - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

MCU MP-RZA1H+FPGA Base EV-RZ Sample Program. Ver.1.00
Copyright (C) 2017 Aone Corporation. All rights reserved.
SW1-2:ON [MP-RZA1H]
      :OFF[MP-RZA1H/FPGA]
SW1-3:ON [AM800480L1TMQW-TNAH-1 || AM800480SETMQW-T00H-I]
      :OFF[AM800480SBTMQW-T00-A]

select sample program.

COMMAND>
  
```

TeraTerm pro の画面にオープニングメッセージが表示されます。



```

COM1:115200baud - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

COMMAND> ?
---MP-RZA1H---
HELP      : HELP [Command]
LOOP      : LOOP ON/OFF
DATE      : RTC Set/Get Date
TIME      : RTC Set/Get Time
MEM1      : Memory Access (8bit)
MEM2      : Memory Access (16bit)
MEM4      : Memory Access (32bit)
FRAM      : FRAM Access
SWM       : MCU Get DIP-SW
LEDM      : MCU Set LED
WDOG      : WatchDogTimer Test
DELAY     : Software Delay Test
STB       : Software Standby Mode Test
PowerDown : NMI->Mem[0x2000_0000]->FRAM[0x0]Size[0x8000] Write
          : FRAM Writing LED1[ON]
---MP-RZA1H/FPGA---
SWF       : FPGA/CPLD Get DIP-SW
LEDF      : FPGA Set LED
---EV[common]---
E2P       : EEPROM Access
RSCAN    : RSCAN-3 External Loop Back Test
---EV-RZ[etc]---
SWB       : BaseBord Get SW
LEDB     : BsdBord Set LED
PWM       : PWM1 Output Test
CTEXT    : Text Write [X:0->19] [Y:0->3] ["Text"]
MTEXT    : Text Write [X:0] [Y:0->3] ["Text"]
---EV-RZ-01[Graphic]---
VMODE    : Disp Mode [1(全画面) 1(1A)/2(2A)/3(1B)/4(2B)]
          : [2(2分割) 1(1A:1B)/2(2A:2B)]
          : [4(4分割) 1(1A:1B)/2(2A:2B)]
VPAINT   : 全画面Paint[0:全消去 Color:1->5]
VFONT    : Font Property Set [Color:1->5]
          : [倍率:1->10 1(12x12)]
VTEXT    : Text Write [X:0->799] [Y:0->479] ["Text"]
IMAGE    : 色認識 [1:RED 2:GREEN 3:BLUE]
-----
KEY[?]   : ? [Command]{HELP}
KEY[*]   : Recall Command
KEY[<]   : Left Move
KEY[>]   : Right Move
KEY[BS]  : Back Space
KEY[ESC] : Abort
[.]     : Parameter
{.}     : Comment
  
```



## 2-2-1. 各コマンドの説明

### LOOP コマンド

各コマンドを繰り返し実行させたい時に使用します。

```
LOOP 1<tab><tab> //LOOP 指示      <tab><tab>記述はスペース表現とします。以下省略
LOOP 0<tab><tab> //LOOP 解除    <tab><tab><tab>記述はリターン表現とします。以下省略
```

LOOP 1 にてコマンド処理を繰り返し実行している時に「ESC」キー入力で中断します。

### DATE コマンド

MCU内蔵の RTC に年月日曜を設定します。

```
DATE 1年1月1日1曜日<tab><tab> //DATE_2015_4_5_0 2015/4/5 日曜日
                                //曜日 0:日 1:月 2:火 3:水 4:木 5:金 6:土
DATE<tab><tab><tab><tab> //現設定データを表示
```

### TIME コマンド

MCU内蔵の RTC に時間を設定します。

```
TIME 9時0分0秒<tab><tab><tab><tab> //TIME_9_0_0 9時0分0秒
TIME<tab><tab><tab><tab> //現設定データを表示
```

### MEM1 コマンド

メモリーを 8bit アクセスで Read/Write/FILL/インクリメント FILL します。

### MEM2 コマンド

メモリーを 16bit アクセスで Read/Write/FILL/インクリメント FILL します。

### MEM4 コマンド

メモリーを 32bit アクセスで Read/Write/FILL/インクリメント FILL します。

```
MEM{1/2/4}_R/FI/W_先頭アドレス_サイズ_{パターン}<tab><tab>
```

{READ}

```
MEM1_R_0x2000_0000_0x100<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分 8bit ダンプ
```

```
MEM2_R_0x2000_0000_0x100<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分 16bit ダンプ
```

```
MEM4_R_0x2000_0000_0x100<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分 32bit ダンプ
```

{FILL}

```
MEM1_F_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0)8bitFILL
```

```
MEM2_F_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0)16bitFILL
```

```
MEM4_F_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0)32bitFILL
```

{Increment FILL}

```
MEM1_I_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0++)8bitFILL
```

```
MEM2_I_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0++)16bitFILL
```

```
MEM4_I_0x2000_0000_0x100_0<tab><tab> //0x2000_0000 から 0x100 要素分(0++)32bitFILL
```

{WRITE}

```
MEM1_W_0x2000_0000_0x12<tab><tab> //0x2000_0000 に 0x12 を Write
```

```
MEM2_W_0x2000_0000_0x1234<tab><tab> //0x2000_0000 に 0x1234 を Write
```

```
MEM4_W_0x2000_0000_012345678<tab><tab> //0x2000_0000 に 0x12345678 を Write
```

**{Read Only Memory アドレス}**

- ・ シリアルフラッシュ ROM エリア      {0x1800\_0000 ~ 0x18FF\_FFFF}
- ・ 内蔵 RAM エリア                      {0x2002\_0000 ~ 0x209F\_FFFF}

**{Read/Write Memory アドレス}**

- ・ MCU 内蔵 RAM エリア                {0x2000\_0000 ~ 0x2001\_FFFF}
- ・ FPGA 側 I/O エリア                 {0x4800\_0000 ~ 0x4800\_7FFF}
- ・ FPGA 内蔵 RAM エリア               {0x4800\_8000 ~ 0x4800\_BFFF}
- ・ MCU 内蔵周辺モジュール            {周辺モジュールの仕様による}

**FRAM コマンド**

FRAM の内容を内蔵メモリーに Read します。また、内蔵 RAM の内容を FRAM に Write します。

**{READ}**

FRAM\_R\_FRAM アドレス Store アドレス サイズ

ex)

FRAM\_R\_0x0\_0x2000\_0000\_0x8000

FRAM アドレス(0x0)からサイズ(0x8000)分 Store アドレス(0x2000\_0000)に Read します。

**{WRITE}**

FRAM\_W\_FRAM アドレス Memory アドレス サイズ

ex)

FRAM\_W\_0x0\_0x2000\_0000\_0x8000

FRAM アドレス(0x0)に Memory アドレス(0x2000\_0000)からサイズ(0x8000)分 Write します。

- ・ FRAM アドレス                      {0x0 ~ 0x7FFF}
- ・ Store アドレス                      {0x2000\_0000 ~ 0x2001\_FFFF}
- ・ Memory アドレス                    {0x2000\_0000 ~ 0x209F\_FFFF}

**SWM コマンド**

MCU 側が制御している DIP-SW1 の状態を表示します。

SWM↵

ex)

MCU DIP-SW1\_1[ON/OFF] SW1\_2[ON/OFF] SW1\_3[ON/OFF] SW1\_4[ON/OFF]

**LEDM コマンド**

MCU 側で制御している LED1/2/3 を点灯・消灯します。

LEDM\_{0/1}\_{0/1}\_{0/1}↵ // LEDM {LED1} {LED2} {LED3} 0:消灯 1:点灯

### WDOG コマンド

WDOG タイマーを起動させ MCU リセットさせます。  
MCU リセット後は、電源を再立ち上げして下さい。

### DELAY コマンド

MCU 内部で利用している 1usec タイマーの精度を計るため LED1 を点滅させます。

```
DELAY _{Time 値}usec<␣ // DELAY 10<␣ 10usec の精度
```

- ①LED1{time 値} 点灯
- ②LED1{time 値} 消灯
- ③LED1{time 値} 点灯
- ④LED1{10msec} 消灯

### STB コマンド

ソフトウェア・スタンバイ・モードに移行させます。  
STB 後は、電源を再立ち上げして下さい。

### Power Down(NMI 処理)

停電検出回路が有効になっている場合、電源 OFF 時に内蔵 RAM の内容を 32Kbyte 分 FRAM に Write します。

LED1 点灯

FRAM(0x0)から内蔵 RAM(0x2000\_0000)の内容を 32Kbyte 分 Write する。

LED1 消灯

LED1 の点灯時間を計測することにより書き込み時間を得ることができます。

### SWF コマンド

FPGA 側が制御している DIP-SW2 の状態を表示します。

```
SWF<␣
```

ex)

```
FPGA/CPLD DIP-SW2_1[ON/OFF] SW2_2[ON/OFF]
```

### LEDF コマンド

FPGA 側で制御している LED5/6 を点灯・消灯します。

```
LEDF _{0/1}__{0/1}<␣ // LEDF {LED5} {LED6} 0:消灯 1:点灯
```

### RSCAN コマンド

RSCAN-3 の外部ループバックテスト機能を実行します。

```
RSCAN<␣
```

ex)

```
<TX>cnt[0] id[1] dlc[8] 00 01 02 03 04 05 06 07 // 00->07 数字を送信 data++
```

```
<RX>cnt[0] id[1] dlc[8] 00 01 02 03 04 05 06 07 // 00->07 数字を受信
```

### E2P コマンド

EEPROM の Read/Write 処理をします。

E2P\_{R/W}\_EEPROM アドレス\_{メモリアドレス}\_サイズ

{READ}

E2P\_R\_ EEPROM アドレス\_サイズ

ex)

E2P\_0x0\_0x100 // EEPROM の 0x0 番地から 0x100 サイズ分ダンプ表示

{WRITE}

E2P\_W\_ EEPROM アドレス\_メモリアドレス\_サイズ

ex)

E2P\_W\_0x0\_0x2000\_0000\_0x80 // EEPROM の 0x0 番地に 0x2000\_0000 番地の内  
// 容を 0x80 サイズ分 Write

この EEPROM は、MAC アドレス内蔵の EEPROM です。

EEPROM の(0x80~0xFF)は、ライトプロテクトになっていますので Write できません。

MAC アドレスは、【0xFA~0xFF】の 6 バイトに格納してあります。

{Read Only Memory アドレス}

- ・ EEPROM エリア {0x80 ~ 0xFF}
- ・ 内蔵 RAM エリア {0x2002\_0000 ~ 0x209F\_FFFF}

{Write Memory アドレス}

- ・ EEPROM エリア {0x0 ~ 0x7F}
- ・ 内蔵 RAM エリア {0x2000\_0000 ~ 0x2001\_FFFF}

### SWB コマンド

EV-RZ-xx 側の SW2\_2~5 の状態を表示します。

SWB

ex)

BaseBord-SW2\_2[ON/OFF] SW2\_3[ON/OFF] SW2\_4[ON/OFF] SW2\_5[ON/OFF]

### LEDB コマンド

EV-RZ-xx 側の LED2~5 を点灯・消灯します。

LEDB\_{0/1}\_\_{0/1}\_\_{0/1}\_\_{0/1} // LEDB {LED2} {LED3} {LED4} {LED5} 0:消灯 1:点灯

### CTEXT コマンド

キャラクタ LCD に英数文字を表示します。

CTEXT\_{0~19}\_\_{0~3}\_\_{Text} // CTEXT {X:列}{Y:行}{英数文字}

**MTEXT コマンド**

モノクロ LCD に英数文字 / 漢字を表示します。

MTEXT {X:0 固定}{Y行}{文字}

**PWM コマンド**

DC モータの回転とデモ運転します。

PWM // SWB [5:++duty 4:-duty 3:demo 2:exit]

EVRZ-01 基板上の SW 指示により DC モータが動作します。

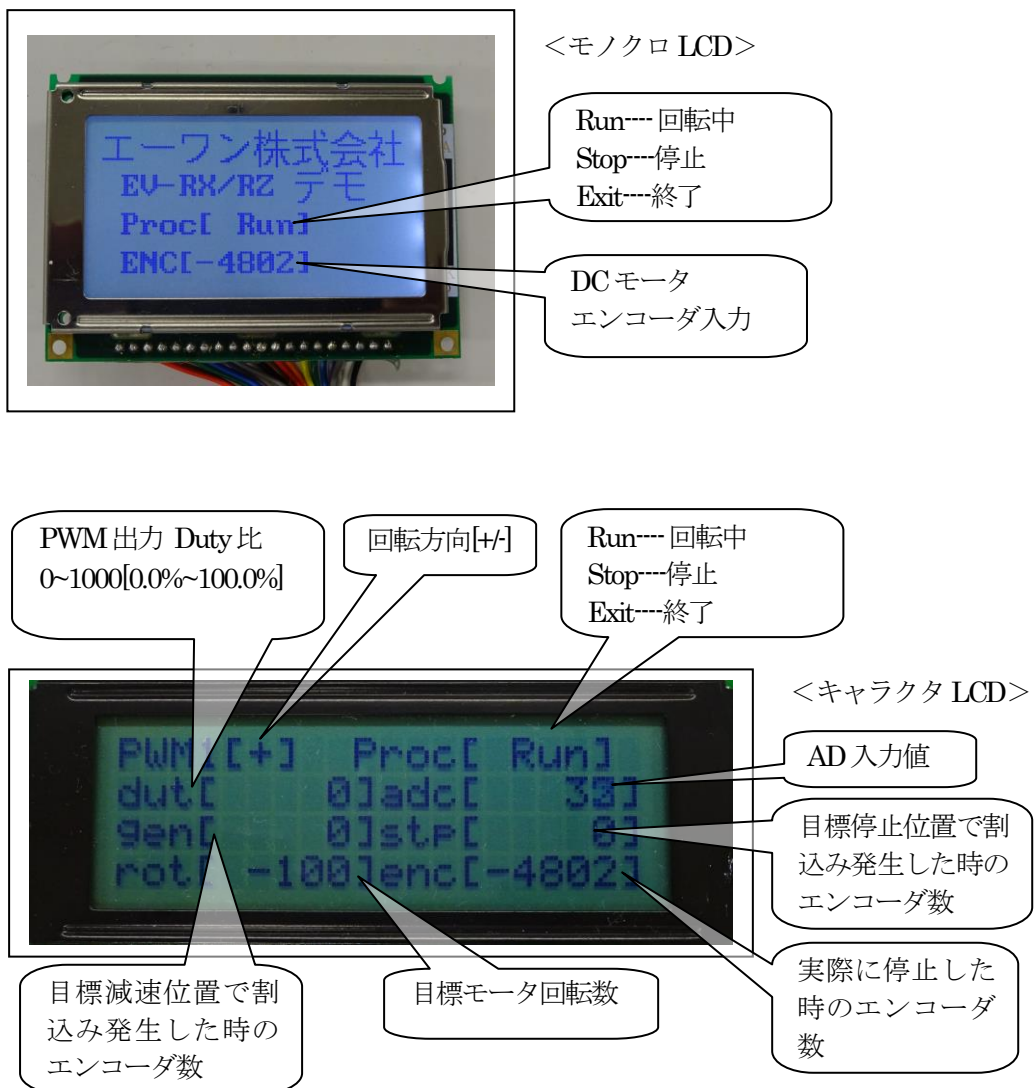
SW5[ON] ----- [+]方向に回転

SW4[ON] ----- [-]方向に回転

SW3[ON] ----- デモ運転

SW2[ON] ----- PWM 処理終了

キャラクタ LCD とモノクロ LCD にデモ表示します。



### VMODE コマンド

カラーグラフィック LCD の表示モードとカメラ入力信号の番号を指定します。

```

VMOD_{画面モード}_{VIN 指定} < > // {画面モード} -- 1:全画面
// +{VIN 指定} --- 1:1A/2:2A/3:1B/4:2B
// {画面モード} -- 2:2分割画面
// +{VIN 指定} --- 1:(1A:1B)/2:(2A:2B)
// {画面モード} -- 4:4分割画面
// +{VIN 指定} --- 1:(1A:1B)/2:(2A:2B)
  
```



### VPAINTE コマンド

カラーグラフィック LCD の全画面を指定色でペイントします。

```
VPAINTE_{色番号} < > // {色番号} -- 0:消去 1:Red 2:Green 3:Blue 4:Black 5:White
```

### VFONT コマンド

カラーグラフィック LCD に描画する文字の色と倍率を指定します。

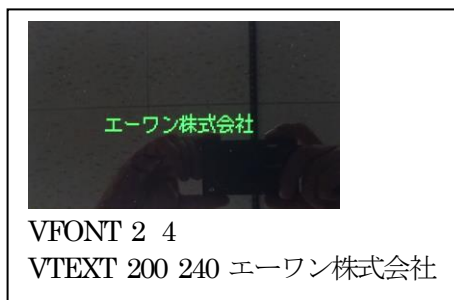
```

VFONT_{色番号}_{倍率} < > // {色番号} -- 0:消去 1:Red 2:Green 3:Blue 4:Black 5:White
// {倍率} ---- 1~10倍
  
```

### VTEXT コマンド

カラーグラフィック LCD に {VFONT} コマンドで指定した色と倍率で文字を描画します。

```
VTEXT_{0~799}_{0~479}_{文字} < > // VTEXT {X:列ドット}{Y:行ドット}{英数漢字}
```



## IMAGE コマンド

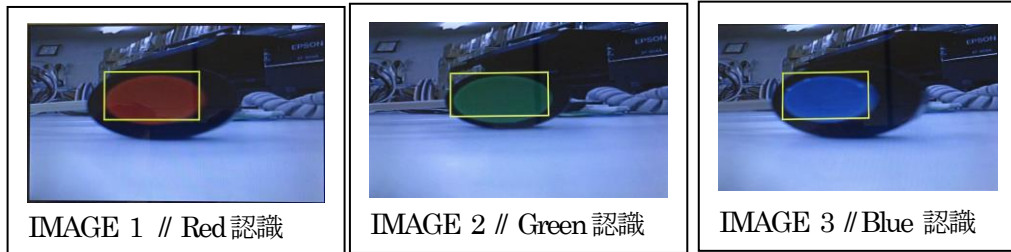
CCDカメラにより入力した画像(カラーグラフィック LCD)から指定色を認識します。

```
IMAGE_ {色番号}_ {彩度補正}_ {明度補正} < > // {色番号} -- 1:Red 2:Green 3:Blue
// {彩度補正} 1~100%
// {明度補正} 1~100%
```

<内部パラメータ変更>

```
IMAGE_4_ {RESOL 値}_ {DEAD 値}_ {2 値化の検出間隔} < >
// {RESOL 値} 1->16 分析する BOX 値
//      仮に 4 とした場合 4x4 の BOX
// {DEAD 値} 1->16 連続判断の干渉値
//      仮に 6 とした場合、6BOX 以上
//      判定位置終了とする。
// {検出間隔} 1->8 2 値化判定の Y 方向間隔
//      仮に 2 とした場合、指定 BOX の
//      の Y 方向を 1 つ飛びこ 2 値化判定
```

・終了は、[ESC]キーを押下します。



## KEY 操作

簡単な 1 ラインエディタ機能を入れてあります。

- ・ BS      バックスペース
- ・ ←      左にカーソル移動
- ・ →      右にカーソル移動
- ・ ↑      1 回前に入力した内容のリコール
- ・ ESC     コマンド処理中の中断

## 2-3. 「EVRZ\_Sample\_USB」プロジェクトの説明

## 1) 動作説明

- EVRZ\_Sample に USB-Function 機能を追加したプロジェクトになります。
- 各コマンド体系は、2-2項を参照して下さい。
- USB-Function ライブラリーは、別途有償にて提供しております。ご購入前の評価用として実行用ファイルは添付しております。

## 2) フォルダ構成とファイル名(評価用)

Sample_IAR			
	EVRZ_USB	EVRZ_Sample.USB.mot	実行用 Hex ファイル
	_PC_Test	ITF_USB_TEST.EXE	PC用テストプログラム
		DRIVER\ITFUSBLib	PC側 USB ドライバー

## 3) フォルダ構成とファイル名(有償) ご購入 ITFUSBLib\_RZA1H\_xx を添付

Sample_IAR\EVRZ_Sample_USB				
	Debug	Exe	EVRZ_Sample.out //ABS ファイル EVRZ_Sample.mot //Hex ファイル	
		List	EVRZ_Sample.map //MAP ファイル	
		Obj	*.cout *.o *.pdi	
		ITF_LIB	空	ITF_LIB オリジナル CD からのインポート 手順書
		config	smpza1h.icf	ロケート定義用ファイル
		lnk_app	空	EVRZ_Sample\src_app にリンク
		lnk_eva	空	EVRZ_Sample\src_eva にリンク
		lnk_evb	空	EVRZ_Sample\src_evb にリンク
		lnk_vdc	空	EVRZ_Sample\src_vdc にリンク
		lnk_sys	空	EVRZ_Sample\src_sys にリンク

無償評価用「EVRZ\_Sample\_USB」に黄色部分(有償)をインポートします。

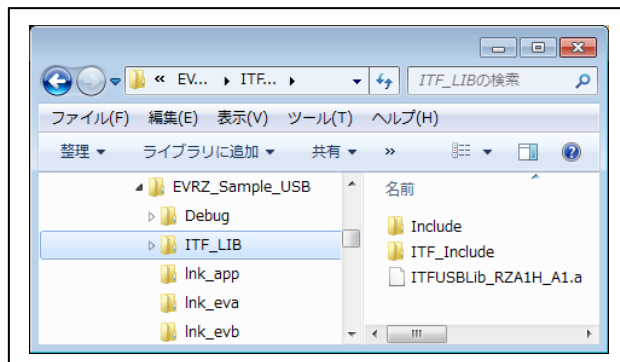


#### 4) ITF\_LIB オリジナル CD (有償) からサンプル CD にインポートする手順

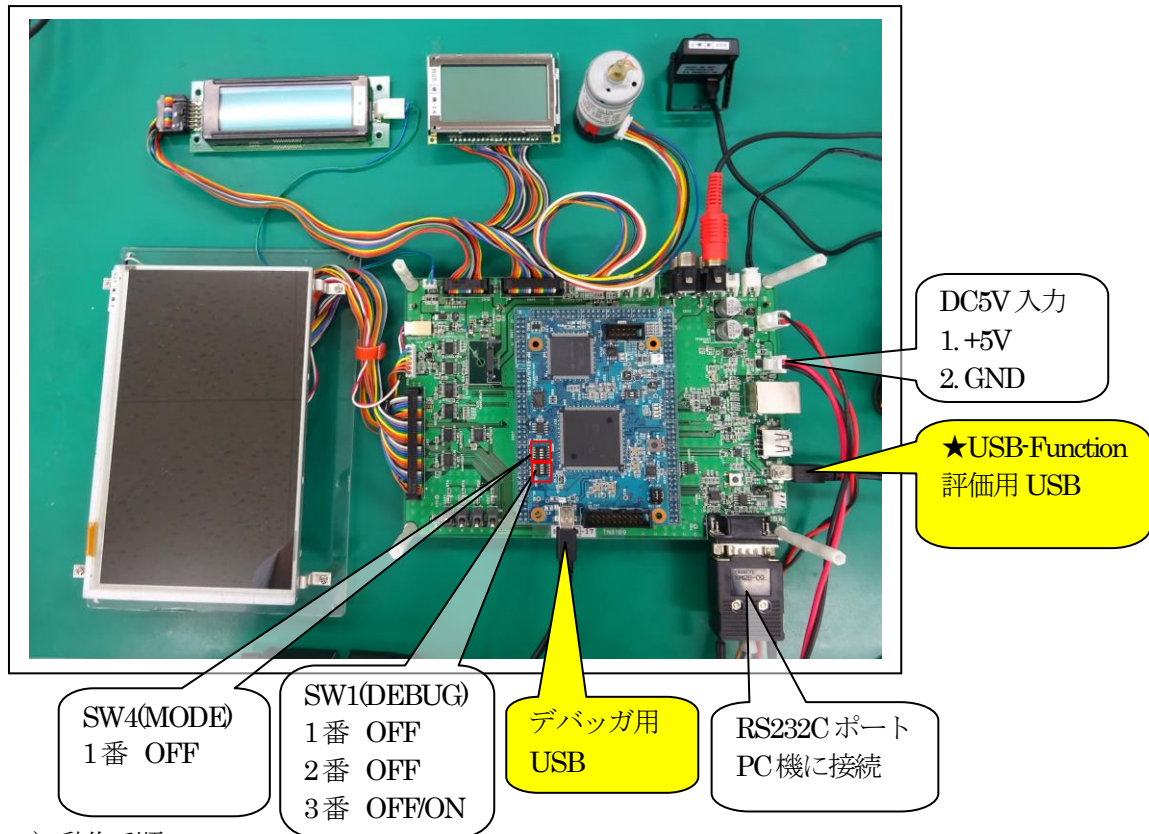
- a. サンプル CD 「EVRZ\_Sample\_USB」を PC 機の「EVRZ\_Sample」と同じフォルダに全 Copy します。または、「Sample\_IAR.zip」を適当なフォルダで解凍します。
- b. 2) 表の黄色部は、空ディレクトリになっていますので、ITF\_LIB オリジナル CD から必要なファイルを Copy します。

ITF_LIB オリジナル CD		サンプル(EVRZ_Sample_USB)
ITF_LIB\Include	→	ITF_LIB\Include
ITF_LIB\ITF_Include	→	ITF_LIB\ITF_Include
ITF_LIB\ITFUSBLIB_xx.a	→	ITF_LIB\ITFUSBLIB_xx.a

上記のように ITF\_LIB オリジナル CD から、サンプル「EVRZ\_Sample\_USB\ITF\_LIB」の空ディレクトリに Copy して下さい。

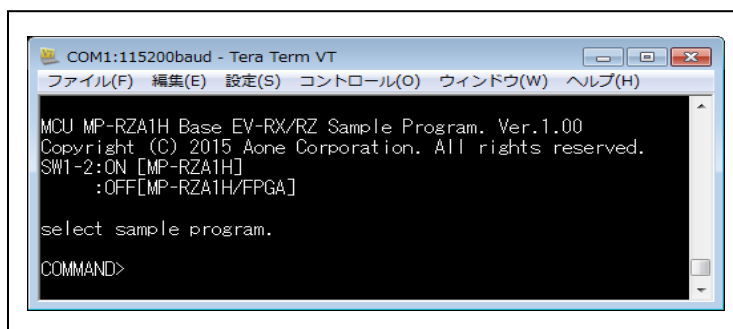


5) 動作構成 (電源 OFF)



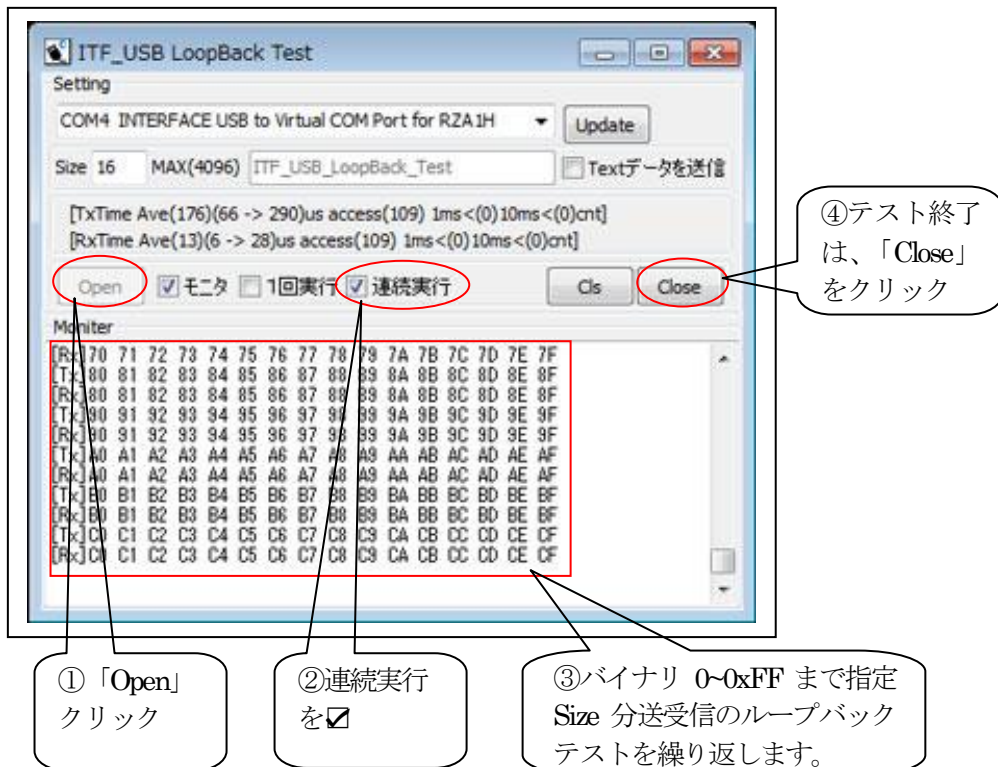
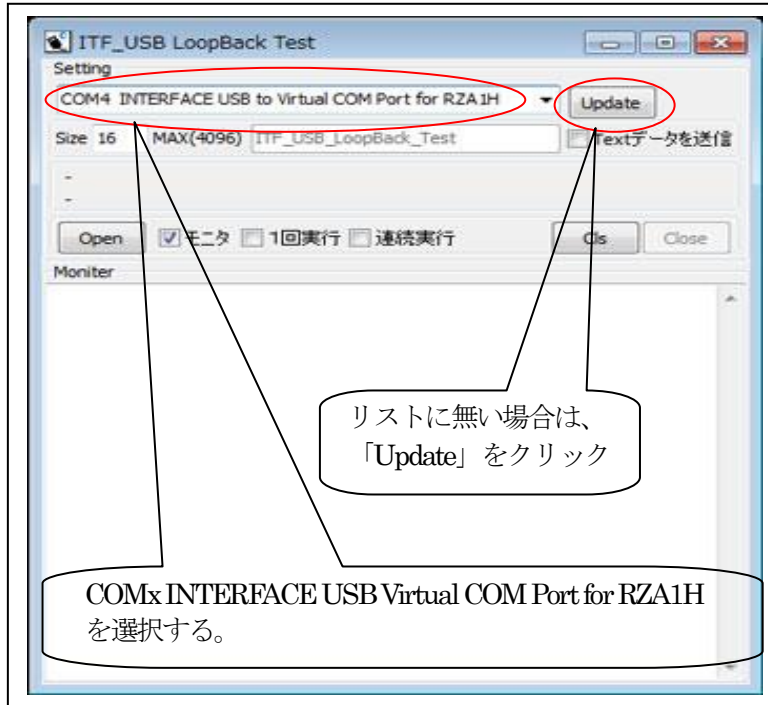
6) 動作手順

- a. ターゲット基板側の電源 OFF の状態で上図の★USB-Function 評価用 USB ケーブル以外を接続する。
- b. ターゲット基板側の電源を ON にする。
- c. デバッガ「DEFnano」を立ち上げる。
- d. デバッガ「DEFnano」画面の左下隅の「Start」をクリックする。
- e. デバッガ「DEFnano」の【オプション】－【フラッシュ ROMライター】を起動する。
- f. 無償評価用 Hex ファイル「EVRZ\_Sample\_USB.mot」をシリアルフラッシュ ROMへ書き込みをする。
- g. ターゲット側の電源を OFF にする。
- h. デバッグ用 USB ケーブルを抜き取る。
- i. ★USB-Function 評価用 USB ケーブルを PC機に接続する。
- j. RS232C ケーブルが PC機に接続されているのを確認後、「TeraTerm pro」を起動する。
- k. ターゲット基板側の電源を ON にする。



TeraTerm pro の起動画面

- l. Windows が、USB ドライバーのインストールを要求しますので USB-Driver をインストールする。  
「Sample\_IAR¥\_PC\_Test¥DRIVER¥ITFUSBLib」  
にドライバーがあります。
- m. TeraTerm pro 画面でコマンド「**USBF**」を入力する。
- n. Windows 側のテストプログラム「ITF\_USB\_TESTEXE」を起動する。



以上です。

### 3. 注意事項

- 本文書の著作権は、エーワン（株）が保有します。
- 本文書を無断での転載は一切禁止します。
- 本文書に記載されている内容についての質問やサポートはお受けすることが出来ません。
- 本サンプルプログラムに関して、インターフェイス社、IAR社、ルネサス エレクトロニクス社への問い合わせは御遠慮願います。
- 本文書の内容に従い、サンプルソフトを使用した結果、不具合が発生しても、弊社では一切の責任を負わないものとします。
- 本文書の内容に関して、万全を期して作成しましたが、ご不審な点、誤りなどの点がありましたら弊社までご連絡くだされば幸いです。
- 本文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

### 4. 商標

- EWARM は、IAR 社の登録商標、または商品名称です。
- RZ および RZ/A1H は、ルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標、または商品名です。
- その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

### 5. 参考文献

- 「RZ/A1H グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編」  
ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ルネサス エレクトロニクス株式会社提供のサンプル集
- 「IDE プロジェクト管理およびビルドガイド」 IAR 社
- 「IAR C/C++開発ガイド」 IAR 社
- 「IAR アセンブリリファレンスガイド」 IAR 社
- 「IAR デバッグプローブガイド IARprobes-2-j」 IAR 社
- その他

〒486-0852  
愛知県春日井市下市場町 6-9-20  
エーワン株式会社  
<http://www.robin-w.com>